

コーチデベロッパーとしての活動

森嶋 修

私は昨年度から日本スポーツ協会のコーチデベロッパーとして、公認スポーツ指導者資格の養成講習会に携わっている。今年度は計8回(延べ15日間)、コーチデベロッパーとして活動をおこなった。

講習会は昨年度と同様にすべてオンラインによる開催となった。講習会はzoomのシステム活用しメインルームとブレイクアウトルームを行き来しながら進行された。さらに今年度からはグーグルスライドやグーグルドキュメントといったオンライン上で共同編集できるシステムも取り入れられた。このような昨年度から採用されているオンラインによる講習会は、従来の対面でおこなわれる講習会よりも高度なITスキルが求められる。昨今の状況を鑑みると、今後はコーチにもある一定水準のITスキルが必要となるかもしれない。

コーチデベロッパーとして講習会に携わることで私自身も多くの学びや経験を得ることができた。講習会の形態はオンライン・ライブで開講されたコミュニケーション実習の授業に取り入れることができ、学生の主体的な学びの場を確保することができた。講習会では一定数の受講生がグーグルスライドやグーグルドキュメントの共同編集に上手く対応することができず苦戦する様子が見受け

られたが、大学の授業時ではそこまで苦戦する様子が見られなかった。学生もオンライン受講が2年目を迎えたことで新しいツールを使用することに抵抗が少なく容易に適応することができるようになったのではないだろうか。

講習会にはコーチデベロッパーを束ねるコーチトレーナーと呼ばれる統括講師がおり、統括講師の下コーチデベロッパーは自身が担当するグループのファシリテーションを務める仕組みとなっている。今年度は4名の統括講師の先生と活動する機会に恵まれた。どの統括講師の先生も自身の強みを活かしたオリジナリティを示しており、私も自分自身の強みをより深く理解する必要があると感じた。また、様々なコーチデベロッパーの先生と活動することで多くの刺激を得ることができた。

オンラインによる講習会はメリットもあればデメリットもあるため賛否両論である。しかし昨年度からオンラインによる講習会に携わっているが、デメリットを感じることは少なく多くの可能性を感じている。オンライン講習会のメリットを活かし昨今の状況下であっても安全で学習効果の高い時間を提供できるように今後も努めていきたい。また、この活動や気づきを今後は研究に結び付けられるようにしていきたいと考えている。

